

昨日、2024.8.28(水)の午後 3:00 ~ 5:00 頃に東京都広尾の末日聖徒イエス・キリスト教会本部集会室で開催された**役員会の概要**を以下に報告します(以下の記事は、議論の順番とは異なり、内容に応じて関係あるところを一括りにしてある個所もある。内容は役員限り、敬称略)。

出席者：宝賀会長、真野・吉濱両副会長、堀監事及び赤坂顧問の5名及び事務局大森。当日までに、岸氏など7名の役員からの委任連絡もあった。

記

1 予算決算の問題

- ①最近までの経理(昨年度の決算、今年度の進行状況等)については、監事の承認を得られるという条件で、役員会としては了解する。今年度は会費未払者の今後の支払を考慮に入れても若干の赤字状態であって(会誌次号の発行を前に準備金が9万円余しかないが、一号の刊行・送付に約19万円は必要)、これに、今後の郵便料金の値上げなど・各種事情を考慮しても、厳しい形の収支推移が続くことになりそうである。
- ②今秋10月より郵便料金値上げが予定されているので、料金節約のためにその前に総会ご案内を出すことを考えるが、会誌次号の頁数節減につとめても、現状の会運営の収支は厳しいとみざるをえない。
- ③この打開のため、会再建以来15年超据置きとしてきた会費を千円上げて、来年度より6,000円とすることを考えることとし、この役員会報告への皆様のお考えを踏まえ、来る総会では会費値上げ決議を考える。

2 今秋の次期総会

- ①ファミリーサーチさんのご協力で会場確保ができたので、11/02(土)午後三時~に渋谷の末日聖徒イエス・キリスト教会・渋谷集会所で開催することとする(昨年と同じ場所です)。
- ②**総会後の講演**については、次のとおり
赤坂顧問による。題目は、「日本の「貴族」— 平安貴族から近世堂上公家へ —」
平安後期から鎌倉初期において、荘園・殿邸の相承を伴う「家」の成立に伴い、昇殿が世襲化されて堂上公家の家格が確立し、室町期までに固定化するが、それ以降、戦国時代、江戸時代などを経て、近世堂上公家が固定化し、明治維新时期に至るまでの動向を講演する予定です。
- ③総会後の懇親会などは例年通りを考えます。

- 3 **事務局の変動** これまでの芳文館スタッフの所在地・町田市金井から、2025年1/1をもって中央区日本橋箱崎町(吉濱副会長の事務所)に移転する。会則の改定が必要。これに応じて、預金口座・会誌在庫品なども含め、適宜、引継を行うものとする。
なお、会誌『姓氏と家系』次号(32号)の編集・刊行には、旧事務局と新事務局が協同して円滑な事務局移転を実現するよう努める。

4 **役員の変動及び改選に関して** 上記、事務局変動等に伴う陣容補充であって、昨年総会で役員改選をしているので、今回の選任は任期が1年となります。

次25年度の役員構成についての検討案は次のとおり。

①基本的には、現在の役員に関しては、特段の事情がないかぎり、そのまま1年の任期が残ります。

②事務局移転などの事情を踏まえ、次の新役員候補と折衝を始めるが、交渉役に真野副会長が主にあたる。

新役員（理事）候補として、名があがったのは、金子千滋・山邊尚幸・宮下玄覇の三氏。

5 会誌『姓氏と家系』 次号編集については上述したが、会誌掲載を巡って若干のトラブルが最近、生じたことでもあり、改めて「投稿要領」を次号に掲載して、掲載等については編集部に一任という前提を徹底させる。

これは、とくに長文の投稿について、投稿者の希望通りの形での掲載が必ずしもできないことを周知するためのものです。上記の会費収支などを考えると、会誌一号あたり全体が八十余頁のなかで収めて運営する必要があります。

以上の今回の役員会の判断・方向付けについて、ご意見・ご希望がおありの方は、ご連絡下さい。その辺の動向等を踏まえ、来る総会へ向けての準備を考えたいと思います。

最後に、時節柄、皆さまのご健勝をお祈りします。

(2024.08.29：宝賀文責)